

# 2012年度 活動方針・運営方針

2012年度 年次総会

2012.04.29 板橋区立前野センター

特定非営利活動法人  
センスオブアース  
市民による自然共生パンゲア



## 重点活動方針



- ◆ 環境教育プログラムの研究開発及び実践を更に普及させる
- ◆ 環境教育に関するインターンシップ制度の制度拡充・組織化を進める
- ◆ 協働実践の新たな形成、行政・学校、企業等民間組織のCSR、環境団体・NPOとの連携をはかる
- ◆ 定例行事の継続的实施及び、対外的連携イベントへの積極的な参加を進める
- ◆ 沖縄に次ぐ、新規エコツアーを立ち上げる。



# 環境教育プログラムの研究開発及び実践を更に普及させる

- 環境教育プログラムの研究開発を専門グループ（希望者など）・個人・学生のアイデアで、ワークショップの場を開発提案していく。
  - ✓ 事前に提案を作って持ち寄り、会合の負担が重ならないように工夫する。夏休みなどを使いプログラム作りの研修会を特設することも検討する。
  - ✓ 保育園・小学校・中学校向けには、環境教育の教育現場への継続的な発信を念頭においたカリキュラム作成及び季節ごとのプログラムの提案を進める。
  - ✓ 高校・大学向けには、中学校版の5つとこれから仕上げていく「放射線から体を守る生活の工夫」を勧め、実践する中で新しいプログラム開発を行っていく。
  - ✓ 学童クラブ・児童館向けには、すでに実践しているプログラムやアクティビティを、先方と相談しながら提案する。
- 区立幼稚園・私立保育園、学童クラブ・児童館さらに高校・大学へ広報を届け、プログラム実践を広げていく。
  - ✓ 学童クラブ・児童館向け広報を作り、実践の場を広げる。板橋区小学校放課後アイキッズなどとの連絡をとっていく。
  - ✓ 高校・大学への働き掛けは、時期を見て計画的に進める。



# 環境教育プログラムの研究開発及び実践を更に普及させる

## ❖ 各区分ごとのプログラム開発計画

区分	プログラム数	方針
保育園 幼稚園	7 → 10~12	自然体験型のプログラムを充実させる。 季節のお勧めプログラムを用意する。
小学校	11 → 14	自然体験型のプログラムを充実させる。 プログラムのカリキュラム化を検討する。
中学校	5 → 7	放射能関係のプログラムを整備する。
高校	5 → 7	各区分へのオリジナルプログラムの開発する。
大学	3~5 → 7	
その他		既存のプログラムから学童・児童館向けのプログラムを作成する。



## 環境教育に関するインターンシップ制度の制度拡充・組織化を進める

- インターンシップ受け入れの大学対象を増やし、受け入れ態勢を軌道に乗せていく年度とする。
  - ✓ 日本女子大学とはすでに連絡が出来、申請するのみである。
  - ✓ 法政大学は、一昨年に受け入れ実績があり、書類を整えて、大学へ受け入れ申し入れを速やかに行う。
  - ✓ 家政大・大東文化大・淑徳短大の担当課にそれぞれ確認、準備を行う。
- ネイチャーゲームリーダー養成講座や教員採用試験対策講座などの関連の活動も継続する。



- 協働による組織の発展を図るため、民間企業も含む社会の環境への関心と活動意欲をくみ上げ、エコポリスセンターの新たな委託業者である学研を含む、民間企業の環境に配慮した提案CSRとの相互理解・連携を進める。
- 大学サークルへの働きかけで関係性を強め、長期的にはそれら環境教育に関わる大学のネットワークのハブとして相互交流の仲介役を担い、環境教育についての勉強会を開催したり環境教育を実践する場を提供したりする。



## 定例行事の継続的实施及び、対外的連携イベントへの積極的な参加を進める

- 沖縄エコツアーについて、9月上旬を念頭において開催の準備を進める。
  - ✓ ツアーの付加価値を考慮に入れ、若干の収益性強化を進める。
- ビオトープの活動について、昨年同様活動に関わっていく。
  - ✓ ビオトープの生態系調査や同調査ならびに芝生管理に関わるインターンシップ生の導入などなどを検討する。
- 区民農園の活動を継続的に行う。
  - ✓ 他の活動との関連が期待される活動で地産地消の普及の一端を担う活動とする。
- 自然観察会・環境講座を継続的に行う。
  - ✓ 野鳥の観察会と動植物の観察会を年1回ずつ調整する。
  - ✓ 「手前みそを作ろう」などの環境講座を開催する。
- 独自プログラムを開発して、外部のイベントに出展する。





## 沖縄に次ぐ、新規エコツアーを立ち上げる。

- 高橋が押し進める三宅島・八丈島他の離島でのエコツアーもセンスオブアースとして主催ないしは後援の形をとることで実現したい。
  - 詳細はトークセッションにて。

## 運営方針



## Pick Up

- ◆ 3年後の五百万円規模の組織を念頭に置いた、本事業年度の財政を二百万規模へと大幅に発展させる
- ◆ 実質的なボランティア団体からの脱却による、仕事としての環境教育普及活動への道を開く
- ◇ ニュース発行・ワークショップなどの月例活動への会員の積極的参加を促す
- ◇ 2014年6月のSoEニュース100号を目指して、広報活動を継続する



## 本事業年度の財政を二百万規模へと大幅に発展させる

- 新規事業立ち上げにより採算性を強化する。
- 会員制度を整備し、会費収入の増加を目指す。
  - ✓ 会員区分に関する改訂を行う。 → 「定款の改定に関する議案」
  - ✓ サポーター制度の運用を検討する。
- 助成金の取得を目指す。
- 賛助金（協賛金）を企業に向けて求めていく。



## 仕事としての環境教育普及活動への道を開く

- 理事・事務局等の組織体制を強化する。
  - ✓ 理事の選任を行う。 → 「理事の選任に関する議案」
  - ✓ 学生を中心としたスタッフの充実に努める。
- 活動参加費の充実や事務局給与などを充実させる。



## その他

- ◇ ニュース発行・ワークショップなどの月例活動への会員の積極的参加を促す
- ◇ 2014年6月のSoEニュース100号を目指して、広報活動を継続する

